

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02847

研究課題名(和文)古代西摂・東播における地域編成の歴史的な重層性 - 中央権力と畿内外縁部 -

研究課題名(英文)Historical multilayer of regional organization in ancient East Harima / Nishi Settsu area- central authority and the area around Kinki -

研究代表者

高橋 明裕 (Takahashi, Akihiro)

立命館大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：90441419

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、摂津西部・播磨東部地域に現地調査を行い中央権力(ヤマト王権)と広域的地域権力が近畿周辺の地域をどのように編成したかを明らかにした。成果は次の5点である。(1)武庫川・加古川水系を結ぶ湯山街道の重要性。(2)加古川は播磨・但馬・丹波地域を結ぶ交通の要衝である。印南野に伝わるナビツマ伝承は王権の国土支配権を象徴する。(3)この地域を6～7世紀に蘇我氏や上宮王家・大伴氏が広域的に勢力を展開した。(4)加古川水系には摂関家領荘園と住吉社領荘園が集中し、明石郡には国衙領が分布する。この相違は平氏政権の播磨支配の結果である。(5)重要な地域的拠点は諸権力にとって共同的に機能した(歴史的な重層性)。

研究成果の概要(英文)：In this study, field survey was conducted in the west Settsu and eastern Harima area. We clarified how the central authority (Yamato kingship) and the wide-area regional power organized the area around Kinki. We gave five achievements. (1) Importance of Yunoyama Highway connecting Muko River and Kako River, (2) Kako River is a key hub of traffic connecting Harima area, Tajima area, and Tamba area. (3) In the 6th century to the 7th century, Ancient clan of Soga and the royal family of Prince Shotoku (Jogu - royal family) - Ancient clan = Otomo developed the area extensively. (4) In the Kako River, the highest aristocrat manor (Sekkankeryou - syouen) and the Sumiyoshi shrine's manor are concentrated, and in Akashi Country there is the provincial governor manor (Kokugaryou). This difference is the result of the Harima rule of the Taira family. (5) Various powers jointly managed important regional bases (historical multilayer).

研究分野：日本古代史

キーワード：交通路 内陸河川 歴史的な重層性 畿内外縁部 中央権力 広域的地域権力 部民制 荘園公領制

1. 研究開始当初の背景

摂津 - 播磨地域の政治的・軍事的重要性はつとに指摘され、古代史では瀬戸内海の海上交通の観点から大阪湾岸を中心とする港津施設や海部などが果たす役割に着目する研究が相次いで提起された。しかしこの地域については、六甲山系の北側を結ぶ内陸部の水陸交通路の問題にも眼を向けることが必要である。すでに中世史研究では、研究分担者の市沢哲が源平合戦、南北朝内乱における当該地域の南北河川水系、国境をまたがる六甲山系北麓の東西交通路の重要性を指摘していた(市沢哲「南北朝内乱からみた西摂津・東播磨の平氏勢力圏」『地域社会からみた「源平合戦」』岩田書院、07年)。これらは従来の古代史研究の盲点をつくものであり、このような方法視角を進展させていく必要があった。

2. 研究の目的

本研究は、古代の中央権力にとって、西国支配と大陸交通の要衝である西摂・東播地域に現地調査を踏まえた分析を加え、中央権力による畿内外縁部の地域編成と、その外側の地域勢力の動向を研究する。この地域は東側の南北間を貫流する武庫川流域、西側の南北間を貫流する加古川流域及び両者をつなぐ内陸交通路(六甲山系北側の湯山街道など)を基軸として、歴史上古代～中世まで関連史料が集中的に現れるところである。これを古代史・中世史研究の立場から総合的に考察することにより、この地域の歴史的特徴と、中央権力や広域的な地域権力による地域編成の重層性を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 西摂・東播地域の河川沿いの古代交通路、及び六甲山北麓の内陸交通路(古道)のルート解明を試みる。その際、各地の古墳・官衙・寺院の配置等、考古学的な学術成果にも注意を払う。

(2) 縁起テキストである『住吉大社神代記』や『播磨国風土記』をはじめ当該地域に伝えられる特定神の鎮座伝承について分析を行う。住吉社領の地域的配置の特質や、神話伝承がどのような主張と結びついているかを地勢学的、歴史的な重層性を考慮した再評価を実施する。

(3) 六国史・風土記・木簡資料などを用い、当該地域の古代氏族の分布状況の全体的特質の究明にアプローチする。従来、日下部や鴨部など、丹波地域も含めた氏族分布調査については、個別の研究成果がある程度あがっているが、西摂・東播・丹波の全体を見渡す視点は、十分とは言えない。本研究では、地帯構造論的な視点から、旧来の個別氏族研究の成果を吸収し、新たな全体像の構築をはかる。

(4) 上の3つの課題のいずれに対しても、中世史研究の立場から分析を加え、古代・中世を通じた見通しを共有する。それとともに、六甲山南麓部の港津論や海洋交通研究との接合を企図する。

4. 研究成果

(1) 武庫川水系(明石川を含む)と加古川水系を結ぶ東西交通路の重要性

古代の志深屯倉が所在する美嚙川沿岸は押部谷を経て明石川に通じ、明石の港湾から瀬戸内海・大阪湾に面した要衝の地であった。この地は東西交通路である湯山街道によって武庫川水系と加古川水系を東西に結ぶ位置にある(「H型交通路」)ことに加えて、中世の丹生山をめぐる争奪戦や、中世城館・吉田住吉山遺跡にも見られるように、能勢(六瀬)、香下、槻並などからの北上を抑える南北交通の要衝でもあった。この地域より丹波国桑田郡(亀岡市曾我部・三宅)を起点とする山陰道に通じることから、丹波・但馬の広域的な交通の掌握にも関わっていたことが見て取れる。こうした地域への屯倉の設置、丹波の「蘇斯岐屯倉」(安閑紀)や山陰道沿いの蘇我部の分布、『播磨国風土記』に見える播磨と讃岐・阿波との交流は、倭王権にとって当該地域を広域的に掌握する必要があったことが理解される。とりわけ大阪湾と明石海峡・鳴門海峡を扼する位置にある淡路が果たした倭王権にとっての意味が改めて注目される。

(2) 加古川水系と印南野台地の歴史的位置

加古川水系は播磨・但馬・丹波を結ぶ地域間交通上の重要な交通路を形成し、上・中流部の久下、柿柴、佐治などは中世において攻防の地となるとともに、古代においては円山川沿岸の養父、出石などとともに重要な古墳、集落遺跡が見いだせる。その加古川の下流・河口部は複数支流を結節する形で丘陵部を貫流している。いわゆる印南野は古代の天皇行幸や倭王権と吉備勢力との政治的関係を表象するナビツマ伝承で知られる。この伝承は、天皇の国土支配権を表象するとともに広域的な交通体系における枢要地を表象していると見ることができる。王権による狩猟地、供御を伴う国土支配権の表象という点で印南野は「高橋氏文」に登場する「葛飾野」との共通点を指摘できる。それは南北に流れる河川の河口(天然の良港)を擁し、複数の水系を結節する形で東西の交通路が貫通する交通上の枢要地であり、また河口部の丘陵地帯は新規の開発対象地として王権や中央権力が関与した点にある。

(3) 畿内外縁部における葛城、大伴、蘇我諸勢力の地域的展開

播磨の志深屯倉における蘇我氏の関与、丹波の蘇斯岐屯倉を起点とする山陰道沿いの

蘇我部の分布、播磨国多可郡にもソガ地名（多可町我井）と7世紀に出現する集落遺跡が所在することから、これを結ぶ丹波・播磨・但馬、さらには辺要の地・隠岐までを結ぶ広域的な交通体系に蘇我系の中央権力が関与した痕跡が見いだせる。蘇我氏は5世紀代の播磨や吉備における葛城勢力の扶植を継承したのではないかと見られ、6世紀から7世紀にかけて新たな広域的な地域権力として蘇我氏や上宮王家が関わった勢力がこれら諸地域に展開した可能性を考える必要がある。加古川水系及び印南野の開発には上宮王家と大伴氏が関与した痕跡があり、大伴系勢力が紀ノ川河口から播磨に進出したと解釈される『播磨国風土記』の記述にも注目される。古代王権と広域的な地域権力の地域的展開を畿内外縁部である播磨、但馬、丹波にとどまらず讃岐、阿波、淡路、紀伊、さらには近江などをも視野に分析していくことの可能性が見いだされた。

（4）摂関家領荘園、住吉社領荘園等の地域的集中と国衙領の拠点的展開

加東郡北部から多可郡に摂関家領荘園が、加東郡東部に住吉社領荘園が地域的に集中し、これら荘園は加古川筋で沿岸部港津荘園と連絡していると見ることができる。久米、吉井、三草、比延、小野原、大川（摂津有馬）の住吉社領は明石郡の港津である阿閉荘、魚住荘とも連絡して機能していたと見られ、河川水系を活かしたH型交通路の歴史的重層性が窺える。一方、国衙領分布の分析からは平氏政権によって湯山街道と加古川という基幹通路を軸に播磨東部の多くを荘園化が進行するが、明石郡に分布する国衙領を介して国衙はこの地の港湾を影響下に置き続けたことが窺える。国衙領が基幹交通路上に拠点的に展開することにより都鄙間交通が支えられていた一端が明らかになった。

（5）歴史的重層性と広域的な地域権力という地域史上の視点

古代から中世にかけて、河川水系、南北・東西交通路を軸に要衝となる地域的拠点が中央権力、広域的な地域権力によって掌握・争奪される事象の歴史的重層性をいくつも見いだした。このことは単に地理的・地帯構造的に規定されているとのみ見るのではなく、諸権力が分散的に支配を行っている下でも、要衝となる地域的拠点が一種の「共同インフラ」的に機能し管理されたことを窺わせる。古代における屯倉設置や部民の分布、中世の荘園・国衙領、城館についてもそのような見方が可能となるのではないか。古代史に即しては、いわゆる部民制、ミヤケ制、そして国造についてもそのような観点から広域的な地域権力による地域支配のあり方を考察していく必要があると思われる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計11件）

高橋明裕、「古代の賀茂郡と北条町小谷」、『わたしたちの小谷』（加西市）、査読無し、2018、41 - 43

坂江涉、「『国生み』神話と淡路の海人の習俗」、兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編『ひょうご歴史研究室紀要』、査読無し、3号、2018、118 - 136

坂江涉、「古代の雲笥里と風穴の祭り」、兵庫県宍粟市閭賀のあゆみ編纂委員会編『閭賀のあゆみ <<記録と記憶を未来につなぐ>>』、査読無し、2018、10 - 15

高橋明裕、「大伴氏と播磨」、兵庫県立教育研究所編『兵庫教育』、査読無し、793、2017、32 - 33

坂江涉、「志深ミヤケの歴史的位置をめぐる基礎的考察」、兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編『ひょうご歴史研究室紀要』、査読無し、巻2、2017、102 - 118

高橋明裕、「『播磨国風土記』からみた東播・西播地域と交通 - 印南野の歴史的位置 - 」、兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編『ひょうご歴史研究室紀要』、査読無し、創刊号、2016、37 - 54

坂江涉、「飢饉は夏にやってくる - 風土記の時代から中世の食料事情 - 」、いひほ学研究会編『いひほ研究』、第8号、査読無し、2016、52 - 61

坂江涉、「『播磨国風土記』の地名起源説話と『伊和大神』の神話」、兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編『ひょうご歴史研究室紀要』、査読無し、創刊号、2016、5 - 24

市澤哲、「雑掌・悪党・両使 摂津国長洲荘の場合」、『日本史研究』、査読有り、650号、2016、1 - 23

高橋明裕、「『住吉大社神代紀』の神領記述の歴史性」、『地域史研究』、査読無し、第115号、2015、2 - 33

市澤哲、「中世明石郡をめぐる路・寺・津」、明石市発掘された明石展実行委員会『中世の明石』、査読無し、2015、93 - 100

〔学会発表〕(計4件)

坂江涉、「国生み神話と古代の海人」、兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室・淡路島日本遺産委員会主催・公開シンポジウム「淡路島古代史の魅力を探る 海人と国生み神話」(招待講演) 2018

坂江涉、「古代～中世の猪名川・武庫川流域と交通路」、2017年度猪名川町生涯学習カレッジ「リバグレス猪名川」5回目(招待講演) 2017

市澤哲、「十四世紀内乱を考えるために」、悪党研究会(招待講演) 2017

高橋明裕、「播磨国風土記が描く「東播磨」」、地域で読み解く播磨国風土記(招待講演) 2015

〔図書〕(計3件)

高橋明裕、岩城卓二ほか10名と共著、尼崎市立地域研究史料館、『たどる調べる尼崎の歴史 上巻』、2016、208 - 215、218 - 224、234 - 238、252 - 255(全255)

高橋明裕、坂江涉ほか11名と共著、神戸新聞総合出版センター、播磨学研究所編『播磨国風土記 はりま 1300年の源流をたどる』、2016、286(坂江 216 - 229、高橋 230 - 239)

坂江涉、館野和己、出田和久ほか14名と共著、吉川弘文館、『日本古代の交通・交流・情報2 - 旅と交易 - 』、2016、72 - 93(全314)

〔その他〕

研究成果報告書

高橋明裕、坂江涉、市澤哲、古市晃、「平成27(2015)年～29年(2017)度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)・基盤研究(C)研究成果報告書「古代西摂・東播における地域編成の歴史的な重層性 中央権力と畿内外縁部」」、2018、80

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 明裕 (TAKAHASHI, Akihiro)
立命館大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：90441419

(2) 研究分担者

坂江 涉 (SAKAE, Wataru)
神戸大学・人文学研究科・非常勤講師
研究者番号：00221995

市澤 哲 (ICHIKAWA, Tetsu)
神戸大学・人文学研究科・教授
研究者番号：30251862